2023　年度　授業計画（シラバス）

学　　科	看護学科		科　目　区　分	専門分野	授業の方法	講義演習
科　目　名	老年看護実践論		必修/選択の別	必修	授業時数(単位数)	30　(1)　時間(単位)
対 象 学 年	2学年		学期及び曜時限	後期	教室名	新館2・3階
担 当 教 員	谷川　マリ 田村　美紀	実務経験とその関連資格	病棟看護師、外来、救急、手術室として30年間勤務。 専任教員として5年間勤務 病院等で勤務　介護支援専門員			

《科目目標》

事例を通じて老年期にある健康障害を持った対象の健康上の問題を抽出し、問題解決に向けた看護が実践できるための看護計画を立案し実践することが出来る。

《成績評価の方法と基準》

【評価方法】課題レポート点(60%)と技術演習評価点、授業態度(40%)を含め合計100点満点で評価する。
但し、レポートの内容と提出期限に間に合わない場合については減点する。
【評価基準】優:80点以上、良:70点以上80点未満、可:60点以上70点未満、不可:60点未満

《使用教材（教科書）及び参考図書》

堀内ふき・大渕律子　ナーシング・グラフィカ　老年看護学①　高齢者の健康と障害　MCメディカ出版（デジタル版）
堀内ふき・大渕律子　ナーシング・グラフィカ　老年看護学②　高齢者看護の実践　MCメディカ出版（デジタル版）
長谷川素美　ナーシング・グラフィカ　成人看護学④　周手術看護　MCメディカ出版（デジタル版）

《授業外における学習方法》

予習・復習を含む自主的な学習時間の確保が必要となります。指定されたテキストや参考図書などを活用して予習・復習を心がけましょう。

《履修に当たっての留意点》

老年看護学概論、高齢者の健康を支える看護、高齢者の健康障害と看護で学習した内容を活用し、成人老年看護学実習にむけて、看護過程の展開を通して、高齢者の特徴を踏まえた看護が提供できるように主体的に取り組んで下さい。

授業の方法			内　　容	使用教材	授業以外での準備学習の具体的な内容
第1回	講義形式	授業を通じての到達目標	老年期の発達と課題が理解できる	シラバス 老年看護学① P.18-85 老年看護学② P.20-301 講義資料	教科書の該当箇所を読み、予習して授業に臨む
		各コマにおける授業予定	老年看護学の復習（老年期とは、発達課題、老年期の加齢に伴う変化、疾患の特徴と看護）		
第2回	講義形式	授業を通じての到達目標	事例のアセスメントに必要な知識を身につけることができる	成人看護学④ P.290-293 講義資料	大腿骨頚部骨折について病態、診断、治療について事前学習しておく
		各コマにおける授業予定	アセスメントに関する講義（病態・検査・治療の理解）		
第3回	講義形式	授業を通じての到達目標	アセスメントツールに基づいて情報整理・分析が出来る	成人看護学④ P.290-293 講義資料	生活歴　フェイスシート ヘンダーソンの14項目の視点において情報分類し、アセスメントしておく
		各コマにおける授業予定	アセスメント（フェイスシート、発達課題と生活歴、ヘンダーソン14項目）		
第4回	講義形式	授業を通じての到達目標	関連図の書き方について〈講義〉 アセスメントツールから情報の分析が行える	成人看護学④ P.290-293 講義資料	ヘンダーソンの14項目の視点においてアセスメントしておく
		各コマにおける授業予定	アセスメント（ヘンダーソン14項目）		
第5回	講義形式	授業を通じての到達目標	関連図の書き方について〈講義〉 アセスメントツールから情報の分析が行える	成人看護学④ P.290-293 講義資料	ヘンダーソンの14項目の視点においてアセスメントしておく
		各コマにおける授業予定	アセスメント（ヘンダーソン14項目）		

授業の方法			内　　容	使用教材	授業以外での準備学習の具体的な内容
第6回	講義形式	授業を通じての到達目標	関連図を完成し、優先度の高い看護問題が抽出できる	成人看護学④ P.290-293 講義資料	関連図を完成し、看護問題を抽出しておく
		各コマにおける授業予定	関連図を作成し、看護問題を抽出できる		
第7回	講義形式	授業を通じての到達目標	考えられる看護問題に対して看護計画を立案し、援助計画を考えることができる	成人看護学④ P.290-293 講義資料	看護計画を立案しておくこと
		各コマにおける授業予定	看護問題に着目して、個別性のある援助計画を立案する		
第8回	演習形式	授業を通じての到達目標	〈演習（実習室）〉 看護計画に基づき、必要な援助を実施し、評価できる	成人看護学④ P.290-293 講義資料	看護計画を立案し、行動計画を立案しておくこと
		各コマにおける授業予定	看護計画に基づいて援助を実施して、評価することができる		
第9回	演習形式	授業を通じての到達目標	〈演習（実習室）〉 看護計画に基づき、必要な援助を実施し、評価できる	成人看護学④ P.290-293 講義資料	看護計画を立案し、行動計画を立案しておくこと
		各コマにおける授業予定	看護計画に基づいて援助を実施して、評価することができる		
第10回	講義形式	授業を通じての到達目標	事例のアセスメントに必要な知識を身につけることができる	老年看護学② P.203-208	パーキンソン病について病態、診断、治療について事前学習しておく
		各コマにおける授業予定	アセスメントに関する講義（病態・検査・治療の理解）		
第11回	講義形式	授業を通じての到達目標	関連図を完成し、優先度の高い看護問題が抽出できる	教科書	関連図を完成し、看護問題を抽出しておく
		各コマにおける授業予定	関連図を作成し、看護問題を抽出できる		
第12回	講義形式	授業を通じての到達目標	関連図を完成し、優先度の高い看護問題が抽出できる	教科書	関連図を完成し、看護問題を抽出しておく
		各コマにおける授業予定	関連図を作成し、看護問題を抽出できる		
第13回	講義形式	授業を通じての到達目標	考えられる看護問題に対して看護計画を立案し、援助計画を考えることができる	教科書	看護計画を立案しておくこと
		各コマにおける授業予定	看護問題に着目して、個別性のある援助計画を立案する		
第14回	演習形式	授業を通じての到達目標	〈演習（実習室）〉 看護計画に基づき、必要な援助を実施し、評価できる	教科書	看護計画を立案し、行動計画を立案しておくこと
		各コマにおける授業予定	看護計画に基づいて援助を実施して、評価することができる		
第15回	演習形式	授業を通じての到達目標	〈演習（実習室）〉 看護計画に基づき、必要な援助を実施し、評価できる	教科書	看護計画を立案し、行動計画を立案しておくこと
		各コマにおける授業予定	看護計画に基づいて援助を実施して、評価することができる		